

「分析パターン」にかかわる授業実践 (中学校版) 学級活動

1 題材名 「うれしい言葉」の贈り物

2 活動内容

(2) 個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること。

ア 青年期の不安や悩みとその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会の一員としての自覚と責任、男女相互の理解と協力、望ましい人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解など。

3 本時の学習(パターン別の授業展開上の留意点を参考)

(1) ねらい

・お互いを勇気づける活動を行い、他者理解によって信頼関係(生徒間、生徒と教師)を築く。

(2) 準備

教師:ワークシート、シール

(3) 展開

| 過程 | 学習活動と主な発問・予想される生徒の反応 | 教師の支援・援助 | 評価 | |
|----|--|--|--|-----------------------------------|
| 導入 | 1 「勇気づけ」のモデルを見る。 * 教師二人が中学生役をして一人が自分のがんばっていることを話す。もう一人が、相手のがんばっているところを話す。 | ・ 緊張をほぐせる雰囲気づくりに努める。 ・ 本時の学習のねらいが理解しやすいように、また、本論につながるように、教師二人でモデルを見せる。 | | |
| 5分 | 中学生 : 「私は部活をがんばっています。」 中学生 : 「部活もがんばっていると思いますが、～さん(くん)は掃除の時、みんなが気がつかないところまで手を伸ばしてよくやっていると思います。」 「私も～さん(くん)は、部活をまじめによくやっていると思います。」 * 中学生 役の感想を聞く。(なんか自分がやっていることが認められてうれしかった・勇気がわいてきたよ・励まされたよ・ほめられた感じがしてうれしかったよ) | ・ 先生、ほんとにうれしそうだなあ。 ・ 上手に言葉掛けをしたり、話をよく聴いたりすることで、自分のことをよく知ることができ、相手を勇気づけることもできることを確認する。(自己理解・他者理解) ・ 上手な言葉掛けを確認して、否定的な意見や言葉かけを絶対にしてはいけないことを強調して話す。 | | |
| | みんなで勇気づけ合って、お互いを認め、まとまりのあるクラスになろう | | | |
| 展開 | 3 「うれしい言葉」の贈り物グループで「勇気づけ」の活動を行う。(グループ5~6人) (1) 個人で考える。 まず一人一人が自分のがんばっているところを画用紙に書く。次にグループのみんなががんばっているところをシールに書く。7分(個人作業) (2) グループで発表会 ジャンケンで勝った人から自分のがんばっているところを話す。それに対して、左隣の人から順番に、その人ががんばっていることを話す。(話し手が勇気づけられるように)シールを相手に渡す。発表者はもらったシールを画用紙に貼る。これを全員について行う。18分(集団作業) (3) 活動を振り返る。 感想を発表する。3分(全体) 4 担任から見た、「生徒一人一人のがんばっているところ」(シール)を聞く。12分(集団作業) 聞いた感想を発表する。(個人) | ・ なんか、恥ずかしいなあ。 ・ 自分の思いを聞いてもらうと、うれしくなるなあ。 ・ みんな、がんばっていることが分かった。 ・ 励まされて、もっとがんばろうと思った。 ・ 先生は自分たちのことをよく見てるなあ。 | ・ グループは、事前に、均等になるように決めておく。 ・ グループ活動を行うに当たり、「自分の思いをしっかり話す」「人の話をよく聴く」「全員が参加する」ことを約束する。 ・ 話すことが得意ではない生徒への配慮として、自分の思いを書いたり、仲間の話をよく聴いたりすることも参加していることになると確認する。 ・ はじめに確認した話し方で相手を勇気づけられるようにすることを確認する。(絶対に否定的なことを言わないように) ・ 振り返りは、生徒の感想を大切に、できるだけ板書する。 ・ 担任からのメッセージは、全員が最後まで静かに聴くように話す。 | ・ 「勇気づけ」の活動を行い、仲間を理解することができた。(観察) |
| 終末 | 5 本時の学習で感じたことや思ったことをワークシートにまとめ、振り返りをする。 6 教師の話を書く。 | ・ 認めてもらって良かったな(自己有感) | ・ 仲間や教師に対する、信頼の気持ちをもつことができた。(ワークシート) | |

「うれしい言葉」の贈り物

< 自分のがんばっているところ >

名前

:

仲間から見た私のがんばっているところ